

武石地域自治センター

令和4年度 重点目標


- 1 参加と協働による地域づくりの推進
- 2 まちづくり活動拠点及び地域財産の整備と地域に根ざした医療の充実
- 3 多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進及び道路交通環境の整備

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	参加と協働による地域づくりの推進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	1 位
総合計画における位置付け	第1編 市民が主役のまちづくり 第2章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第3節 参加と協働による自治の推進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ア ICTの活用による行政サービスの向上と業務の効率化 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上田市過疎地域持続的発展計画を策定し、地域のさらなる発展と人口増加につなげていく必要があります。 ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。 ○ スマートシティ化への取組は、上田市スマートシティ推進計画に基づき推進します。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進は、平成22年度策定の当初構想を「美しい武石地域はの景観を存続する」ために自治連、地域協議会、住民自治組織、市の四者で見直し、令和元年度末に第二次武石地域全域公園化構想が策定されたことから、改めて地域住民へ周知するとともに、引き続き、樹木破碎機、乗用草刈機、畦草刈機等の貸出をはじめ、獣害対策、花木苗支給等についても協働による景観整備を進める必要があります。余里地域花桃の里運営は、武石地域の地区における代表的な住民組織の取組であり、武石地域全域公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上田市過疎地域持続的発展計画を策定し、地域のさらなる発展と人口増加につなげる取組を目指します。 ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、地域の課題と問題を明確にし、改善に取り組むことを目指します。自治基本条例の基本理念を踏まえ、地域住民が自ら参加し地域内の課題を解決できる住民自治組織「住みよい武石をつくる会」を支援し、地域住民と行政の協働による地域自治を推進し、地域が健康で元なまちを創りあげることにより「健（康）幸（福）都市」の実現を目指します。 ○ スマートシティ化への取組は、個別施策について関係課とともに推進します。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想の理念を広く周知し、自らの地域を自らの手で美しくする活動を積極的に推進することで地域コミュニティの活性化が図られます。余里地域花桃の里運営は、引き続き運営支援することにより、公園化構想の推進が図られます。 		該当するSDGsの目標	  		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○ 過疎地域持続的発展計画の策定 (1) 過疎地域持続的発展計画の策定 (2) 過疎地域持続的発展計画策定に伴うパブリックコメントの開催	(1) 4月～9月 (2) 6月～7月	(1) 過疎地域持続的発展計画を9月議会で議決、県へ提出 (2) 地域住民、地域活動団体の意見、希望を聴取	(1) 過疎地域持続的発展計画は、9月議会で議決を受け、県に提出をした。 (2) 7月の1か月間、パブリックコメントを行い、延べ61件の意見があった。		(1) 9月議会で議決し、県へ提出 (2) 市民の意見を過疎地域持続的発展計画に盛り込み事業計画に組み込むよう検討	
② ○ 人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業の実 (1) 武石の魅力再発見～「食」と「歴史」で街を元気にプロジェクト (2) 武石秋まつり「おねり行列披露」事業 (3) 地域住民と協働し上田市指定文化財を継承する取組	(1) 6月～3月 (2) (3) 11月	(1) イベント開催 (2) (3) 市民団体と協働し「おねり行列」を開催	(1) 武石の魅力再発見では、武石の郷土食のレシピを募集している。また、「たけし双体道祖神散策マップ」の作成に向けて編集集中。 (2) (3) 11/3に武石秋まつりを開催し、その中で、おねり行列の披露する予定で、自治センターだより等で周知を行った。		(1) ・武石の郷土食のレシピ、たけし双体道祖神散策マップを作成し、地域住民へ配布 ・長野大学の学生と連携しSNSで地域の魅力やイベント等を発信し、地域を知ってもらうための活動を実施 (2) (3) 11/3に武石秋まつりを開催し、その中で「おねり行列」を披露	
③ ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進 (1) ふるさと財団からの提案の活用 (2) 住民自治組織との連携とまちづくり計画に基づく事業支援	(1) 4月～ 3月 (2) 4月～ 3月	(1) 事業に応じた国の財政支援の選定 随時 (2) 運営委員会への参加と地域担当職員の支援 随時	(1) ふるさと財団からの提案のうち、特に練馬区との連携について住民自治組織としてどう関わることができるのか、様々な会議において検討を重ねた。 (2) 地域担当職員の立場で、部会、役員会、各種事業に参画するとともに、住民自治組織の円滑な運営に資するため、随時支援・助言を行った。		(1) ふるさと財団からの提案の活用を検討 (2) 地域担当職員が、部会、役員会、各種行事に参画、随時支援を実施	
④ ○ 武石スマートシティ実証プロジェクト事業関連 (1) ICTを活用したスマート農業の実証実験の実施に向けた取組み (2) ドローンによる医薬品を想定した物資輸送実証実験	(1) 4月～ 3月	(1) プロジェクト会議の開催 随時 実証実験の実施 随時	(1) 武石スマートシティ実証プロジェクト事業では、6月補正で予算が付き、9月には委託業者が確定し、10月には、地域住民の協力を得て、実証実験が始まる予定。		(1) トラクターの自動運転の実証実験実施（11月～12月） (2) 3Dマップを作成し、ドローンの自立運転による医薬品を想定した物資輸送実証実験実施（12月13日）	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
⑤	<p>○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進</p> <p>(1) 構想の周知と地域住民による協働事業の支援</p> <p>(2) 花木苗等支給事業</p> <p>(3) 樹木破碎機、草刈機の貸出事業</p> <p>(4) 余里一里花桃の里運営支援事業</p>	<p>(1) 4月～ 3月</p> <p>(2) 4月～ 3月</p> <p>(3) 4月～ 3月</p> <p>(4) 4月～ 5月</p>	<p>(1) 地域自治センターだより武石ホームページ掲載 2回以上</p> <p>(2) 自治会等3団体以上への配布</p> <p>(3) 自治会等へ延べ 10回以上</p> <p>(4) 地域活動団体等との協働と支援</p>	<p>(1) 地域自治センターだより武石 7月16日号で、第二次武石地域全域公園化構想に係る上田市の主な取組状況と各種機械貸出事業の周知を図った。</p> <p>(2) 新型コロナウイルスによる地域活動縮小傾向の影響もあり苗木の支給を希望する自治会、団体等はなかった。</p> <p>(3) 貸出事業は、樹木破碎機が12回、乗用草刈機が5回の実績となった。</p> <p>(4) チラシ作成（20,000枚）と配布を行い、仮設トイレを4/20～5/8まで設置した。（ノルディックウォーキングは、武石観光協会で実施）</p>	<p>(1) 地域自治センターだより武石（7月16日号）で、各種機械貸出しの周知を行い活用促進実施</p> <p>(2) 周知を図るもコロナ禍の影響から、配布希望団体なし。</p> <p>(3) 樹木破碎機：14回、乗用草刈機：5回、畔草刈機：1回の利用。</p> <p>(4) 仮設トイレ設置支援（4月20日～5月8日）</p>
特記事項	<p>○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎地域持続的発展計画の策定に伴い地域住民の意見等を取込みます。 ・ 武石地域の魅力を地域内外に発信するため人生100年づくり・地域創生ソフト事業を活用し地域住民協働で取り組みます。 ・ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、まちづくり計画での課題についてを協働で取り組みます。 ・ 住民自治組織が主体的に取組む活動を支援し、市民協働の取り組みを推進します。 ・ 第二次武石地域全域公園化構想の関連事業の推進は、自治連、地域協議会、住民自治組織、市のとの協働で事業を推進します。 			<p>○取組による効果・残された課題</p>	

令和4年度 重点目標管理シート

重点目標	まちづくり活動拠点及び地域財産の整備と地域に根ざした医療の充実		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2 位
総合計画における位置付け	第4編 健康・福祉ともに支え合い健やかに暮らせるまちづくり 第1章 自分らしい豊かな人生を送る健康づくり 第2節 安心して医療が受けられる環境づくり		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	1 大切な市民の命を守り続ける医療体制の充実を推進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築 ウ 私有財産の適切な管理と利活用					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石地域総合センター整備は、旧武石老人センター解体、駐車場・広場整備事業の検討と施設の利用促進への取組を行う事により、総合センター周辺の景観を整える必要があります。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では予てから地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきましたが、武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取組む自主防災組織の育成が必要です。 ○ 地域の人口減少とともに患者数は減少傾向にあり、地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していくことが必要です。こうしたことから、令和3年度に策定した武石診療所のあり方についての方針に基づき、国保依田窪病院との統合・再編を進めていくことが重要となっています。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石地域総合センター整備は、機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする武石地域総合センターを整備し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策、地域の賑わいの創出まで含めた市民協働による開かれた地域づくりが推進できます。 ○ 施設の集約と規模の適正化により、利便性の向上と維持管理経費の縮減、行政効率の向上が図られ、環境に配慮した施設の構造と適正な設備機器の導入によりCO2排出量の削減も期待できます。 ○ 武石地域総合センターの運用に当たり、公民館等関係機関との協議を図り、利用促進の取組を行います。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。 ○ 武石地域唯一の医療機関として、今後も引き続き医療サービスを提供するとともに、医療だけでなく福祉や介護などの関係機関と連携を図り地域住民の健康増進に寄与します。また、これまでの在宅医療を大切にされた家庭医として、プライマリケア（患者が最初に接する医療の段階）を実践し、生活全般をケアできるような診療体制の充実と診療所の安定した運営を行います。さらに、新型コロナウイルス感染予防対策を適切に行い、院内感染者0（ゼロ）を目指します。 		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○ 武石地域総合センター整備 (1) 旧武石老人センター解体事業 (2) 駐車場、広場整備事業の検討 (3) 施設の利用促進への取組（武石公民館と協賛）	(1) 4月～ 3月 (2) 4月～ 3月 (3) 4月～ 3月	(1) 解体工事完了 (2) 実施設計完了 (3) センター貸室等の有効利用の促進	(1) 老人センター解体事業については、関係箇所と調整を図り順調に進んでいる。 (2) 駐車場、広場整備事業については、関係箇所と調整を図り順調に進んでいる。 (3) 施設の利用促進については、新型コロナウイルス感染症の状況により貸館事業自体を控えているため取り組んでいない。		(1) 関係課所と調整を図り事業完了 (2) 庁内調整を図ったが、課題整理に時間を要し来年度繰越 (3) キッズスペースの設置、文化祭等の利用などホワイエの有効利用が図られた。	
② ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施 (1) 自主防災組織リーダー研修会の実施 (2) 防災訓練の実施	(1) 5月～3月 (2) 8月～3月	(1) 全18自治会対象 50人程度 (2) 開催参加者 90人程度	(1) 自主防組織リーダー研修については新型コロナウイルス感染症対策を取り、6月24日に開催した。正副自治会長、民生児童委員、女性消防隊等42名の参加となった。 (2) 防災訓練については市民対象の訓練は新型コロナウイルス感染症の状況により中止となったが、職員対象の新型コロナウイルス対策の訓練に参加し知識の習得を図った。		(1) 6月24日開催 正副自治会長、民生児童委員、女性消防隊等42名参加 (2) 防災訓練は中止 非常参集訓練及び防災システム操作訓練を危機管理防災課主導で実施	
③ ○ 武石診療所の維持・充実 (1) 国保依田窪病院との統合・再編 (2) 診療所のPR等情報発信 (3) 診療所事業の充実 ・ 関係機関と連携し、地域住民の健康推進事業の充実	(1) 4月～ 3月 (2) 4月～ 3月 (3) 4月～ 3月	(1) 国保依田窪病院との検討会議（随時） 統合再編基本協定案の作成 電子カルテの統合・更新（12月） (2) 自治センターだより 年6回 ホームページ、エリアトーク、メール、Twitterの配信 随時 (3) 休日の予防接種の実施 年3回	(1) 過疎債活用の検討が生じたことから、国保依田窪病院との統合・再編に向けた会議は実施していない。電子カルテの統合・更新に向けた本契約を議決を経て締結した。 (2) 自治センターだより「武石診療所通信」掲載（5,7,9月） ホームページ更新、Twitterによる情報提供（随時） (3) 実績を踏まえ、休日の予防接種は実施せず、診療時間内の予防接種に変更		(1) 過疎債を活用した運営体制再検討のため、国保依田窪病院との統合・再編に向けた検討会議は実施しなかった。そのため、統合再編基本協定案の作成も行わなかった。電子カルテの統合・更新は目標時期より遅れたが3月末に終了した。 (2) 自治センターだより「武石診療所通信」に6回記事を掲載 ホームページ更新、Twitterによる情報提供（随時） (3) 実績を踏まえ、休日の予防接種は実施せず、診療時間内（午後4時から5時まで）の予防接種に変更した。（8日間64人）	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
③	<ul style="list-style-type: none"> 夜間・休日を利用した医療サービスの提供 (4) 診療体制の充実 円滑な診療所運営 (5) ふるさと寄附金を活用した財源の確保 (6) 令和5年度の診療体制の検討 	(4) 4月～3月 (5) 4月～3月 (6) 4月～3月	(4) 患者からのクレーム 0件 (5) 診療所基金への積立 20,000千円 (6) 令和5年度の医師の配置と宅直制度廃止に向けた取組	(4) 患者からのクレーム 0件 (5) 8月末時点 474件 9,255千円の寄附 (6) 関係機関・近隣病院への相談、協議	(4) 患者からのクレーム 0件 (5) 3月末 1,814件 寄附額 32,717千円 基金積立額 16,157千円 (6) 診療所長と国保依田窪病院からの派遣医師による外来診療体制。宅直制度は廃止する。
④	○ 地域財産の管理と整備 (1) 市有財産の適正な管理と整備	(1) 4月～3月	(1) 所管する財産の状況把握及び整備	(1) 美ヶ原台上に残存する建物解体に向け、跡地利用についてサウンディング調査を計画した。滞納整理として、債権放棄の準備を進めた。	(1) 美ヶ原台上ふるさと名産センター周辺整備に関するサウンディング型市場調査を実施し、2社から提案あり。滞納が繰越されている2件については債権放棄ができた。
特記事項	○ 市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 <ul style="list-style-type: none"> 武石地域総合センター整備は、旧武石老人センター解体事業、駐車場・広場整備事業の検討をし、武石地域総合センターの利用促進を図り、シビックプライドを醸成します。 自主防災組織の育成と防災訓練の実施については、住民自治組織への協力を呼びかけ市民協働で取り組みます。 武石診療所の維持・充実、運営あり方の検討等については、武石地域唯一の医療機関として、安全で安心な医療の提供を行い、患者に寄り添った診療所を目指します。 			○ 取組による効果・残された課題 <ul style="list-style-type: none"> 国保依田窪病院との電子カルテ統合を行い、患者カルテの相互閲覧が可能となった。依田窪病院、信大病院から派遣を受け、複数医師での診療体制を構築した。国保依田窪病院との新たな連携体制の検討が必要になっています。 	

重点目標	多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進及び道路交通環境の整備		部局名	武石地域自治センター	優先順位	3 位
総合計画における位置付け	第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興	上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 エ 公共マネジメントの推進 オ 収益と負担のあり方の見直し					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光施設等の管理、運営については、今後も公共施設マネジメントの取組が必要です。 ○ 武石番所ヶ原スキー場レストハウスは耐震性が不足し狭小のため、安全の確保と利便性を向上させる必要があります。 ○ 県営中山間総合整備事業の推進については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修や営農の効率化を図るため、計画的に進めることが必要です。 ○ 実質化された「人・農地プラン」の実行については、農地の利用調整やマッチング等プランの推進に向け、積極的に取り組むことが重要です。 ○ 地域おこし協力隊による地域の活性化等に向けた取組を推進するため、隊員と行政、地域とが連携し、円滑に活動できるよう支援が必要です。 ○ 地域内人口の減少、高齢化により地域の魅力が低下しており、様々な課題が顕在化しています。 ○ 地域の魅力を軸にした様々な展開により、交流人口の拡大や賑わいの創出、地域の活性化等を図る取り組みを進めていく必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光施設等の管理、運営については、時代の変化に対応させつつ有効に活用することで、必要なサービスの提供を将来にわたり継続していくことを目的とします。 ○ 武石番所ヶ原スキー場整備は、利用者数に対応できるレストハウスの規模に増築と耐震補強することで、利便性と安全性の向上を図ります。 ○ 県営中山間総合整備事業については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修等を計画的に整備推進することで、効率的な営農環境の確保を図ります。 ○ 地域おこし協力隊の活動支援は、任用された隊員が行政職員や地域住民とは異なる新しい視点、自由な発想や行動力により、観光・農業用既存施設の利活用をはじめ将来的な起業・創業を視野に入れた活動を展開することで、新たな魅力の発掘や賑わいの創出に期待ができません。 		該当するSDGsの目標	  		
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
① ○ 観光施設等の管理、運営あり方の検討等 (1) 岳の湯温泉雲深荘、武石番所ヶ原スキー場、武石温泉うつくしの湯、巢栗溪谷緑の広場 (2) 巢栗溪谷緑の広場においてトライアル・サウンディングを実施	(1) 5月～ 3月 (2) 4月～ 3月	(1) 検討会等 5回以上 指定管理者との意見交換 2回以上 (2) 実施結果を踏まえ、年度内に活用方針等を取りまとめ	(1) 5月31日、8月29日に庁内検討会を実施し、地域協議会からの意見書に対する回答書の検討を行った。 (2) 空中テント2張、チャレンジライン1基設置		(1) 庁内検討会を2回、指定管理者と意見交換会を3回実施し、観光施設等の管理、運営のあり方検討を行った。雲深荘は、地域協議会に温泉施設在り方検討部会を設立し、検討を始めた。 (2) 7月から10月まで4か月間実施。施設の魅力再発見や効果的な利活用方法、課題の把握ができた。	
② ○ 道の駅美ヶ原高原駐車場整備の推進 (1) 排水路工事等	(1) 4月～ 3月	(1) 年度内完了	(1) 令和3年度繰越事業は、11月末に完了予定。 令和4年度実施事業は、財源調整のため未着手。		(1) 辺地債による財源調整や、関係機関との調整に不測の日数を要したため、工期が十分に取れず、事業の年度内完了が困難となり、翌年度へ事業を繰越した	
③ ○ 巢栗溪谷整備事業の推進 (1) 遊歩道、橋の改修等	(1) 4月～ 3月	(1) 年度内完了	(1) 令和3年度繰越事業は、10月末に完成見込 令和4年度実施事業は、施工箇所調整のため未着手。		(1) 辺地債による財源調整や、関係機関との調整に不測の日数を要したため、工期が十分に取れず、一部の事業の年度内完了が困難となり、翌年度へ事業を繰越した	
④ ○ 県営中山間総合整備事業（美の郷地区）の推進（H29から継続事業） (1) 実施箇所である地元との調整及び協議、説明会	(1) 4月～ 3月	(1) 2工区 3回以上	(1) 今年度工事を実施している築地原堰工区において地元推進委員会と5月から7月にかけて4回の会議を行い、予定通りに進捗している。		(1) 地元組織である下原（築地原堰）水路改修事業実行委員会との協議を重ね、水路改修工事は12月に完了し、地元負担金の納入も3月中旬に完了した。	
⑤ ○ 実質化された人・農地プランの実行 (1) プラン実行に向けた地域懇談会の開催 (2) 人・農地プランの見直し	(1) 4月～ 3月	(1) 関係者等との懇談 2回以上 (2) 実行をふまえ見直し等を検討	(1) 市の農政担当者会議において今年度の取組について協議、あわせて国のWeb説明会に2回参加、情報共有及び今後の進め方について確認。 (2) 地域懇談会及び意見交換会については、今後開催を予定。		(1) (2) 人・農地プランが、法の一部改正により「地域計画」への移行に伴い、懇談会（農業委員会での意見交換会）を2回実施	
⑥ ○ 地域おこし協力隊の活動支援 (1) 観光資源、既存施設の利活用推進・拡大に向けた活動に関わる支援	(1) 4月～ 3月	(1) 地域活性化イベントの開催支援、既存施設の利活用	(1) 地域団体との協働による地域振興に関する取組、既存施設の利活用に向けた業務の支援を行った。		(1) 取組活動の報告と今後の活動計画について定期的に打合せを実施	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
⑦	○ 災害復旧事業及び防災事業の推進 （1）施設災害復旧事業の推進 （2）急傾斜地、砂防事業の推進	（1）4月～ 3月	（1）既発注災害工事年度内完了 （2）防災・砂防など県事業への協力	（1）東日本台風災害及び令和3年8月豪雨災害に伴う復旧工事は、年度内完了に向け予定通りに進捗しており、工事未了箇所は農業施設2箇所となった。（農地農業施設災4箇所、土木施設災5箇所完了） （2）長野県施工の砂防関連事業についても予定通りに進捗している。（砂）内の山沢、（急）上小寺尾、（砂）番所ヶ原、（維）番所ヶ原2工区	（1）農地農業用施設災害6箇所、土木施設災害5箇所すべて完了 （2）地元調整により予定通り進捗している。
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・ 雲溪荘の利用促進を図るために使って残す活動を市民協働で取り組むほか、武石地域の魅力発信により利用者の増加を図ります。 ・ 武石番ヶ原スキー場整備事業の推進は、施設を整備することで利用者の利便性と安全性の向上を図ります。 ・ 令和元年及び令和3年の災害被災箇所の復旧事業を推進し、施設の機能回復を図ります。			○取組による効果・残された課題	